

放射能から子どもを守る会@東久留米

【活動エリア】 東久留米市内全域
【活動日】 不定期
【代表名・問い合わせ先】 090-4649-9155（松井）

＜私たちの活動＞

2011年の原発事故を受けて、幼い命を守るにはどうしたら良いのだろうか？という緊迫した思いから、子どもをもつ親が中心となって2011年8月に発足しました。

「生活の身近なところから、エネルギー、放射能汚染、食の問題を見つけて考えていくこと」

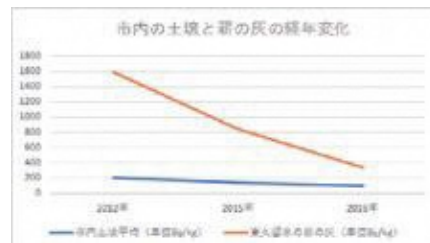
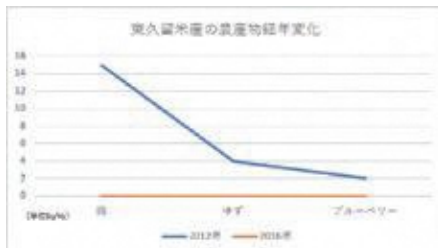
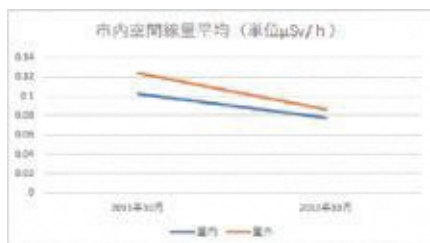
そのための「可能な限り客観的なデータ・裏付けを求めること」をモットーに活動を続けてきました。

コロナ禍においては、集まってのミーティングはできませんが、ラインを使ってお互いに気になるニュースを発信、共有し、意見交換をしています。

＜これまでの主な活動＞

- ★市役所が貸与する放射能測定器で市内の空間放射線量(シーベルト)を継続測定
- ★ホットスポットファインダー(GPS機能との連動型空間線量率自動記録システム)で市内全域を測定
- ★市内の土壌・薪ストーブ灰・農産物等の放射能濃度(ベクレル)を継続測定
- ★市議会に4つの請願を提出(2011年12月)
- ★「こどもみらい測定所」代表・石丸偉丈氏の講演会を開催(2016年9月)
- ★東久留米環境フェスティバルに参加
- ★東久留米放射能アンケート(150人より回答)電力会社についてのアンケート(130人より回答)を実施

＜測定結果と経年変化＞



これまでに土壌48検体、農作物18検体、その他(木の灰、落ち葉など)14検体の合計80検体を測定しました。東久留米産の梅干、梅、薪ストーブの灰は経年変化も調査しました。

＜私たちが今思い、考えること＞

震災後10年が経過した現在でも、福島県内では野生のイノシシから高濃度の放射性物質が検出され、駆除できないなど、原発事故による影響は終わっていないと感じています。

とはいえ、市内の土壌測定検査、農産物測定検査、水道局が発表している下水処理における放射能濃度の測定値も下がってきていることは確かです。人体に危険を及ぼす数値でないことは客観的な数値からも読み解けますが、汚染水の処理方法も決定していない今、原発事故の残した負の遺産は大きいです。また、今後も続く廃炉への道、原発とその政策の行方を注視し、知識をアップデートすべきだと思います。私たちも現実にも真摯に向き合いながら、今後も活動を続けていきたいと考えています。

